

**一般社団法人 ウッドマイルズフォーラム**  
**(平成 27) 2015 年度 定時総会 議事録**

- 1 開催された日時 平成 27 年 7 月 23 日 (木) 10 時 30 分～12 時 00 分
- 2 開催された場所 林友ビル 6 階中会議室 (東京都文京区後楽 1-7-12)
- 3 会員総数及び定足数 総数 90 名 定足数 46 名 (過半数)
- 4 出席会員数 57 名 (出席者 12 名、表決委任者 45 名)  
(出席) 藤本昌也、藤原敬、三澤文字、白石秀知、松下修、榎本崇秀、滝口泰弘  
菅徹夫、橘里子、中桐秀晴、中尾祐典、小柳理恵

5 議 題

決議及び承認事項

第 1 号議案「平成 26 年度事業報告および平成 26 年度収支決算」の件  
報告事項

- ・「平成 27 年度事業計画および平成 27 年度収支予算」の件

6 配布資料

- 01 2014 年 (平成 26 年) 度事業報告 (案)
- 02 2014 年 (平成 26 年) 収支決算 (案)
- 03 2015 年 (平成 27 年) 事業計画・収支決算

7 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で滝口理事が定足数の充足を確認し、続いて、同理事から本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款に基づき藤本会長が議長となり、本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款 22 条の規定に基づき、議長及び出席した理事全員とし、議案の審議に移った。

○ 決議及び承認事項

第 1 号議案「平成 26 年度事業報告および平成 26 年度収支決算」の件

第 1 号議案の説明が行われた。滝口理事より平成 26 年度事業報告および平成 26 年度収支決算案について、配布資料 (01、02) の通り説明があった。

第 1 号議案に関連して、次の補足説明があった。

(藤原) 平成 26 年度事業報告の (4) 関連する国内外の他団体との交流連携について、SGEC

専門員・評議会は、ロンドンオリンピックでは第三者による森林認証材を用いることを組織委員会が決定したが、東京オリンピック・パラリンピックの施設においても、環境にやさしい木を使っていくという運動や運営をどのようにしていくべきか、ウッドマイルズの観点から意見が欲しいという趣旨で参加している。REDD+（気候変動枠組条約の中で途上国の森づくりを支援する枠組みについての日本の支援団体）については、木材のトレーサビリティ等も話題に出てくると思われ、ウッドマイルズフォーラムとして参加している。審議の結果、第1号議案は出席者全員一致で可決した。

## ○ 報告事項

### ・「平成27年度事業計画および平成27年度収支予算」の件

滝口理事より、理事会で承認された平成27年度事業計画および収支予算について、配布資料(03)の通り報告があった。

関連して、次の質疑応答、意見交換があった。

(藤原) 顧問について、全国木材組合連合会会長、全国森林組合連合会会長に就任して頂いた。北海道知事は知事選もあり、現在就任の更更新手続きを行っている。

(藤本) 顧問について、元岩手県知事の増田氏、森林フォーラムの内山氏には、お会い出来ればお願いしたい。～(松下) 8/1、8/2に内山氏とお会いするので伝えておく。

(白石) 収支改善のためには柱になる事業が必要。木材の供給事業者のウッドマイルズ認定事業について、京都を中心にやれる範囲で実現化できるよう努力していきたい。

(榎本) 会員をどのように増やしていくか。木青連等の大きな団体への告知や、まだまだ国産材化が見込める中小工務店の集まり等、実務者団体でウッドマイルズの知名度がないところをターゲットとしてはどうか。

(松下) ウッドマイルズ関連指標算定書は工務店にも施主にも、とても価値がある。これだけ増えてきている地域材を取扱う家づくり団体にいかにしてPRしていくか、収益事業としても少し検討した方がよい。

(三澤) ウッドマイルズ関連指標の改訂に合わせて、新たに算出講習を呼びかけてはどうか。全ての家づくり団体に普及するのは難しいので、積極的に関わってもらっている工務店等に絞って。また、製材の木材自給率が上がっても住宅着工戸数が下がっているの、木材供給者としては、新たな非住宅の販路を開拓する必要もあり、ウッドマイルズの算出を公共木造施設づくりの補助金の条件としてもらうのが良いのでは。

(橘) 森林、木材に関連する団体がとても多いことが分かったが、ウッドマイルズについては知名度がまだ低いと感じる。工務店も施主も賛同する人は多いと思う。特に地球環境に対する貢献度が分かることは喜ばれる。補助金等の条件にもウッドマイルズを付けて、レベルを上げてほしい。

(中桐) 顔の見える家づくりグループの増加は、表向きには環境的な側面もあるが、補助金という経済的インセンティブが現実的な要因である。木材自給率の向上も同じ理由。環境的な側

面が多様化し、ウッドマイルズの取組も多様化してきた経緯がある。今後は多様化せずにエッジの効いたウッドマイルズのための切り口でやっていく方法もある。ただエッジが効きすぎても問題なので程度が難しいが。また、ウッドマイルズレポートは今どれくらい発行されているのか、どのように活用されているのか一度整理して、ウッドマイルズをやるのは当然だという方向にもっていくのも良い。山の話では山梨はオリンピックの影響も出てきている。

(中尾) フォーラムの財政基盤が危機的状態。会費を口数制にする、合法木材認証を安く会員へ提供する、京都の事業者はウッドマイルズをほぼ無料で使っているので、300以上の事業所に会員になってもらう等により会員を増やすのはどうか。また、京都府産木材認証制度について、カーボンフットプリントや炭素固定量表示の検討も進められているので、ウッドマイルズ算出の中にも組み込んでもらえると、京都の制度でもそのまま使える。地域経済認証についても取組む予定だが、京都だけでなくウッドマイルズとも連携して検討できると良い。

(菅) ウッドマイルズレポートをやりたいと思っていた時期があったが動けていないので、近いうちに一度チャレンジしてみたいと思っている。

(藤原) 財政基盤や組織等、理事会でしっかりやるべき議論と、運動論のような議論と、整理をしてしっかりと検討していきたい。

(藤本) 財政は厳しいが、とにかく元気が出る活動をして、会員を増やして、という議論を午後のワークショップでは行いたい。

(藤本) 最低限の活動として、会員の情報交換ができるような会報誌を年1回は出すべき。それに伴い、年会費を値上げしても良いと思う。

以上をもって議案の審議等を終了したので、12時00分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した理事及び監事は記名押印する。

平成27年7月23日

(議長) 理事 藤本 昌也

理事 藤原 敬

理事 三澤 文子

理事 白石 秀知

理事 松下 修

理事 榎本 崇秀

理事 滝口 泰弘